



「安全あんぜんに、たのしく釣つり！」  
“ゆうすけ” “さくらこ” の



ゆうすけアンドンをくらいの

「安全あんぜんに、たのしく釣り！」

「ライフジャケットってなに？」

ゆうすけ 「こんどの日ひようび、家族かぞくみんなで釣りつに行くんだ

さくらこ 「へへ。なにを釣りつに行くの？」

ゆうすけ 「えっと……、チューじゃなくて……」

さくらこ 「もしかして、キスじゃない？」

ゆうすけ 「あ、そうそう。キス、キス」

さくらこ 「海の女王うみのじやうって言いわれてるよね

ゆうすけ 「そうなの？ さくらこ、よく知しってるなあ」

さくらこ 「うふふん。お父おとうさんと釣りつに行ったことがあるもん」

ゆうすけ 「ぼくは釣りつに行くのは、はじめてだよ。さくらこにも釣りつれた？」

さくらこ 「もちろーん！ ちゃんと自分おれで釣りつたよ

ゆうすけ 「すっげー！

って、さくらこにも釣りつれるなら、ぼくにも釣りつれるよね？」

さくらこ 「どーかなー？ ちゃんと用意よういはしてあるの？」

ゆうすけ 「えっへん。つりざおもリールも買かってもらったもんね

さくらこ 「そうじゃないよ。ぼうしとか、長ながぐつとかだよ

ゆうすけ 「うん。長ながそでシャツ、ぼうし、長ながぐつもあるよ

さくらこ 「ライフジャケットは？」  
ゆうすけ 「へ？ ライブチケット？」  
さくらこ 「ちつがーう！ ライブジャケット下ー！」  
ゆうすけ 「なに、それ？」  
さくらこ 「海に落ちても、浮いていられるベストだってば」  
ゆうすけ 「なあんだ。だったら平気平気。ぼくはおみぎはとくいな」  
さくらこ 「ゆうすけはさ、いつも服を着ておよいでんの？」  
ゆうすけ 「え？ すいらいパンツだけに決まってるじゃん」  
さくらこ 「じゃ、ゆうすけはパンツいつちようで釣りするの？」  
ゆうすけ 「そんなワケないだろ！ 服を着てるよ」  
さくらこ 「ふーん、ゆうすけは海に落ちたらおぼれちゃうね」  
ゆうすけ 「なんでだよ！」  
さくらこ 「だって、ぬれた服はすごく重いんだよ」  
ゆうすけ 「そつか！ ぬれた服がくっついて、うごけなくなるかも」  
さくらこ 「でしょ？ だからライフジャケットがひつようなの」  
ゆうすけ 「子どもサイズもあるのかなあ？」  
さくらこ 「あるよ。自分用のライフジャケットを買ってもらったもん」  
ゆうすけ 「でもさあ、ライフジャケットって高いんだろ？」  
さくらこ 「わたしのは１０００円だったよ」  
ゆうすけ 「えーッ、つりぎおより安いじゃんー！」  
さくらこ 「そつだよ。それにさ、ころんだ時もいたくないんだから」

ゆうすけ 「へ〜。でもさ、かっこわるくない？」

さくらこ 「アクセルテクターって知ってる？」

ゆうすけ 「ボウケンジャーのよろいだろ？」

さくらこ 「そうそう。あれとにってるんだよ」

ゆうすけ 「かっこいいじゃん！」

さくらこ 「それにホイッスルもついてるよ」

ゆうすけ 「ピーッ、って吹くホイッスル？」

さくらこ 「うん。もしも海に落ちた時に吹くの」

ゆうすけ 「そっかー。大声を出しても、そのうち声がかれちゃうもんね」

さくらこ 「ゆうすけ、かっこいい！ わかってるじゃん」

ゆうすけ 「まあね。でも、さくらこはすごいなあ」

さくらこ 「安全じゃなきゃ、たのしめないもん」

ゆうすけ 「よし。あしたデパートで買ってもらおう」

さくらこ 「デパートじゃなくて、釣りぐ屋さんにあるよ」

ゆうすけ 「ラジャー！ お母さんと釣りぐ屋さんにゴーだ。アタック！」

さくらこ 「あはは、ボウケンジャーになってる」

「ライフジャケットはどうやってきるの？」

ゆづすけ 「ライフジャケット買ってもらったぞ。かつこいいだろ？」

さくらこ 「うん。イケてる、イケてる」

ゆづすけ 「でもさ、なんかヘンなひもがついてるんだよ。なんだコレ？」

さくらこ 「またひもだよ。」

ゆづすけ 「これをつないでおかないと、海に落ちた時にぬげちゃう」

ゆづすけ 「そっか。」

ライフジャケットは浮かんでも、からだはしずんじゃうもんな

さくらこ 「ボート用のジャケットは、またひもがついてないけどね」

ゆづすけ 「なんでボート用はまたひもがついてないんだろ？」

さくらこ 「だってボートなら、高いところから落ちるわけじゃないもん」

ゆづすけ 「なるほど。ボート釣りといばう釣りはちがうもんな」

さくらこ 「さ、ゆづすけはちゃんとまたひもをつないでね」

ゆづすけ 「よし、それじゃしっかり、ビシッとな」

さくらこ 「ゆづすけ、男の子はそれじゃ……」

ゆづすけ 「なんで??？」

さくらこ 「しゃがんでみればわかるよ」

ゆづすけ 「えーと、ヨイシヨ……って、アイテテテッ！

タマタマがつぶれちゃう」

さくらこ 「アッハッハッハ！ わかった？」

ゆづすけ 「わ、わかった……。しゃがめるくらいにしなきゃダメだね」

さくらこ 「まえのファスナーと、よこのベルトはしっかりしめようね」

ゆづすけ 「うん。からだに合あわせて……、っ。よし、これぞっ。」

さくらこ 「オツケ！ じゃ、せいのうテストするよ」

ゆづすけ 「え？」

さくらこ 「パンチッ！」

ゆづすけ 「ウワッ！ イタタ……っ。アレ？ いたくない？」

さくらこ 「ね？ ウレタンが入はいってるから、いたくないでしょ？」

ゆづすけ 「うん。いきなりパンチでも平へい気だった」

さくらこ 「コンクリートのていぼっや、ゴツゴツした岩いわの上うへでころんでも、

むねやせなかをまもってくれるの」

ゆづすけ 「役に立たつのは水みずに落おちた時ときだけじゃないね。

さすがアクセルテクター」

さくらこ 「ライフジャケットだってば……」

「海に落ちたらどうするっ。」

ゆうすけ 「よぉーし。これで安全に釣りがたのしめるぞー」

さくらこ 「そーかなー？」

ゆうすけ 「なんでだよ。ちゃんとライフジャケットもあるよ」

さくらこ 「だって、ゆうすけは海に落ちたことないでしょっ。」

ゆうすけ 「ライフジャケットを着ていれば、

からだが浮くからおよげるじゃん」

さくらこ 「じぶんでおよぐことよりも、

たすけてもらうことをかんがえなきゃ」

ゆうすけ 「そっか。むりにおよごうとすると、つかれちゃうもんな」

さくらこ 「そう。たすけてもらえるまで、体力をのこしておくの」

ゆうすけ 「でも、どうすればいい？」

さくらこ 「まず、からだの力をぬいて、手足をひろげる。  
あわててジタバタしない」

ゆうすけ 「うん。そうすれば浮くって、プールのじゅぎょうでもならった」

さくらこ 「服はむりしてぬいごうとしない」

ゆうすけ 「なんで？」

さくらこ 「服の中にたまった空気でも、

しばらくは浮いていられるからね」

ゆうすけ 「服の中の空気かぁ。じゃあ、ぬがない方がいいね」

さくらこ 「大だいの字じになるのがいいんだよ」

ゆうすけ 「でもさ、ズボンはぬいだ方がほついいんじゃないの？」

さくらこ 「ぬれてからだにはりついた服ふくやズボンは、

かんたんにぬげないよ」

ゆうすけ 「そつか。ぬごうとする方がほつ、かえってつかれちゃうんだ」

さくらこ 「そうそう。」

それに岩いわやていぼうに、はい上がる時ときヶがしちゃう」

ゆうすけ 「くつは？」

さくらこ 「長ながぐつはぬいだ方がほついいよ。

うんどつぐつならはいてた方がほついい」

ゆうすけ 「水みずが入はいると、長ながぐつは重おもいもんな。さくらこ、すごいな」

さくらこ 「さくらこ先生せんせいとおよびなさい」

ゆうすけ 「はい、さくらこ先生せんせい！」



「どんなところ、どんな時があぶない？」

ゆうすけ 「こんどこそ、なにがあってもダイジョーブだぞ」

さくらこ 「ぜんぜん、ダイジョーブじゃない」

ゆうすけ 「なんでダメだし？」

さくらこ 「だって、ゆうすけは海に落ちたいの？」

ゆうすけ 「へ？」

さくらこ 「安全にたのしむっていうのは、

あぶないめにあわないってことだよ」

ゆうすけ 「あー、そっかあ。」

さくらこ ライフジャケットのお世話になっちゃダメなんだ」

さくらこ 「そっそっ。」

あぶないところや、あぶない時を知っておくのも大切なの」

ゆうすけ 「海に落ちたり流されたりしなきゃ、

おぼれることはないもんな」

さくらこ 「そーゆーこと。ゆうすけは、どこがあぶないとおもっ？」

ゆうすけ 「テトラの上はあぶないよね」

さくらこ 「ノリがついてみどり色になってる石やコンクリートも、

すべるからあぶないよ」

ゆうすけ 「でもさ、こんど釣りに行くのは砂浜だから安全だろ？」

さくらこ 「あつまーい。砂浜だってあぶないこともあるんだから」

ゆうすけ 「えー！ だってあさいし、落ちることはありえないじゃん」



初演：2006年9月9日  
愛知県美浜町「美浜少年自然の家」  
『初心者親子釣り教室』



2006年9月9日～10日(於:美浜少年自然の家)  
『親子初心者釣り教室』 受講者:35家族,109名

さくらこ 「海には波があるんだよ？」  
ゆうすけ 「そっか、波か！ あさくても流されちゃったらあぶないな」  
さくらこ 「それに波はいつも同じじゃないんだから」  
ゆうすけ 「そっなの？」  
さくらこ 「ヨタ波っていう、大きな波が1時間に何回かくるんだよ」  
ゆうすけ 「あ、しおひがりに行った時に、お父さんが言ってたっけ」  
さくらこ 「大きなふねがとおった時も、大きな波がくるよ」  
ゆうすけ 「ってことは、海むかってせなかを向けてるとあぶないな」  
さくらこ 「ゆうすけ、えらい！ よくわかったね」  
ゆうすけ 「えっへん！ それにしても、さくらこはよく知ってるなあ」  
さくらこ 「だから、さくらこ先生っておよびなさい」  
ゆうすけ 「はーい」